聖マリア病院麻酔科専門研修プログラム



社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院

聖マリア病院麻酔科専門研修プログラム

1．専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2．専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本研修プログラムでは，研修後期に高度先端医療や救急・集中治療に特化した連携施設での研修を特徴としている。本人の希望に合わせ、選択可能である。

3．専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は，専門研修基幹施設である聖マリア病院で研修を行う。
- 後半2年間は研修連携施設で研修を行う。高度先端医療、救急・集中治療、ペインクリニックを含む様々な症例を経験する。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表（例）

1年目	2年目	3年目	4年目
聖マリア病院	聖マリア病院、九州大学病院、佐賀大学医学部附属病院、東北大学病院、旭川赤十字病院、秋田大学医学部附属病院、熊本大学病院、佐賀県医療センター好生館、福岡市立こども病院	聖マリア病院、九州大学病院、佐賀大学医学部附属病院、東北大学病院、旭川赤十字病院、秋田大学医学部附属病院、熊本大学病院、佐賀県医療センター好生館、福岡市立こども病院	聖マリア病院、九州大学病院、佐賀大学医学部附属病院、東北大学病院、旭川赤十字病院、秋田大学医学部附属病院、熊本大学病院、佐賀県医療センター好生館、福岡市立こども病院

週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
夜勤			夜勤				

4. 研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

研修プログラム統括責任者：島内 司（麻酔）

専門研修指導医： 島内 司（麻酔）

藤村 直幸（麻酔・集中治療・救急）

自見 宣郎（麻酔）

佐々木 翔一（麻酔）

前田 愛子（麻酔、ペインクリニック）

専門医： 坂井 寿里亜（麻酔）

井手 朋子（麻酔）

犬塚 愛美（麻酔）

高口 由希恵(麻酔)

麻酔科認定病院番号：483

当院は、救命救急センター、総合周産期母子医療センターを併設している地域中核病院である。救急医療に主軸を置く当院では、24時間365日患者さんを受け入れており、新生児から高齢者まで数多くの症例を経験できる。年間麻酔科管理症例数が約5000例あるため、麻酔科専門医取得に必要な症例は、当院で全て経験することが可能である。

当院の麻酔の特徴としては

① 整形外科手術、呼吸器外科、外科、小児外科、形成外科に対しては、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた麻酔管理や術後疼痛管理を積極的に行っている。

② 小児の麻酔症例が多いのが特徴です。6歳未満の小児の手術件数は年間600件を超えている。

③ 心臓血管外科手術は、胸部大血管手術や弁置換術に加え、EVARなど低侵襲心臓大血管手術を経験できる。

④ 形成外科が、口唇口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症など先天異常に対する治療を積極的な行っているため、気道確保困難が予想されるTreacher Collins SyndromeやPierre Robin Syndromeなどの症例を経験できる。

⑤ 福岡県南の産科医療の拠点であり、ハイリスク妊婦の麻酔を数多く経験できる。帝王切開の手術件数は年間300件前後である。

⑥ 外科、脳神経外科、整形外科、形成外科の緊急手術が多いため、緊急手術症例対応に必要な知識と技術を取得できる。

⑦ 日本でも有数の股関節・大腿近位の骨折の治療実績を誇り、脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔の手技を多く経験できる。

大学病院のように高度先端医療の手術は非常に少ないですが、麻酔科医師として必要な技術の大半を当院で取得可能である。また医師の働き方改革に伴い、麻酔科医の負担を軽減するような取り組みも積極的に行っており、働きやすい環境で麻酔を勉強する体制を整えている。

学会発表に関しては、国内・国際学会とも費用援助しており、年間の発表回数に制限はない。また英語論文の作成も積極的に支援する体制が整っている。

①専門研修連携施設

九州大学病院

研修実施責任者：山浦 健（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

専門研修指導医：山浦 健（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

東 みどり子（麻酔）

神田橋 忠（麻酔）

白水 和宏（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

牧 盾（麻酔、集中治療、救急）

住江 誠（麻酔、心臓血管麻酔）

崎村 正太郎（麻酔、集中治療）

福徳 花菜（麻酔、緩和ケア）

石川 真理子（麻酔）

信國 桂子（麻酔）

水田 幸恵（麻酔、心臓血管麻酔）

浅田 雅子（麻酔、ペインクリニック）

石橋 忠幸（麻酔）

眞島 妙子（麻酔）

中村 侑里（麻酔）

渡邊 雅嗣（麻酔）

中野 良太（麻酔）

篠塚 翔（麻酔、ペインクリニック）

中島 考輔（麻酔）

高森 遼子（麻酔）

赤坂 泰希（麻酔）

坂田 いつか（麻酔）

専門医：春田 怜子（麻酔）

吉村 美穂（麻酔）

上原 英梨子（麻酔）

福地 香穂（麻酔）

松山 優梨子（麻酔）

小佐々 翔子（麻酔）

認定病院番号：8

特徴：九州大学病院は，全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患，経カテーテル的大動脈弁置換術），ロボット手術等の症例数も多く，高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また，集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど，関連分野での幅広い研修を行うことができる。

②専門研修連携施設

佐賀大学医学部附属病院（以下，佐賀大学病院）

研修実施責任者：坂口　嘉郎

専門研修指導医：坂口　嘉郎（麻酔，集中治療）

山田　信一（ペインクリニック・緩和ケア）

冨田　由紀子（麻酔）

谷川　義則（麻酔，集中治療）

中川内　章（麻酔，集中治療）

山下　友子（集中治療）

中村　公秀（麻酔，集中治療）

久我　公美子（麻酔）

天本　啓介（麻酔）

平松　史帆（ペインクリニック・緩和ケア）

野口　洋（麻酔）

松林　佑亮（麻酔）

専門医：力武　千晶（麻酔）

認定病院番号　238

特徴：佐賀大学病院では豊富で幅広い手術が行われ，ロボット支援下手術やハイブリッド手術室での血管内治療など高度で先進的な手術，合併症を有する重症患者の手術も多い。専門研修に求められる多様な麻酔症例，手技を十分に経験できる。ペインクリニック，集中治療の研修も可能である。

③専門研修連携施設

東北大学病院

研修実施責任者：山内　正憲（麻酔、ペイン、区域麻酔、呼吸療法、小児麻酔、老年麻酔）

専門研修指導医：山内　正憲（麻酔、ペイン、区域麻酔、老年麻酔、呼吸療法、小児麻酔）

江島　豊（麻酔、集中治療）

杉野　繁一（麻酔、集中治療）

小野　理恵（麻酔、集中治療、小児麻酔）

鎌田　ことえ（麻酔、老年麻酔、神経麻酔）

大西　詠子（麻酔、ペイン、区域麻酔）

海法　悠（麻酔、集中治療、心臓麻酔、小児麻酔）

齊藤　和智（麻酔、集中治療、小児麻酔）

武井　祐介（麻酔、集中治療、心臓麻酔）

紺野　大輔（麻酔、集中治療）

金谷　明浩（麻酔、集中治療、呼吸療法、小児麻酔）

太田　卓尚（麻酔、集中治療、心臓麻酔）

三浦　裕子（麻酔、小児麻酔）

小林　直也（麻酔、集中治療、小児麻酔）

矢吹　志津葉（麻酔、ペイン）

尾形　優子（麻酔、集中治療、心臓麻酔）

森　咲久絡　（麻酔、心臓麻酔）

井汲　沙織（麻酔、集中治療）

佐藤　友菜（麻酔、集中治療、心臓麻酔、小児麻酔）

齋藤　秀悠（麻酔、ペイン、小児麻酔）

舟橋　優太郎（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔）

髙橋　和博（麻酔、集中治療）

入間田　大介（麻酔、集中治療）

関根　智宏（麻酔、心臓麻酔）

間島　卓哉（麻酔）

認定病院番号：2

特徴：小児、帝王切開、心臓麻酔（TAVIを含む）、分離肺換気、脳神経外科麻酔、および肺・心臓・肝・腎・小腸移植など多種多様な麻酔に関する研修が可能。さらに、集中治療やペインクリニックも研修可能。日本麻酔科学会などにおける学術発表や論文指導を丁寧に指導。大学院進学，多職種連携、マネジメント、教育、統計、AI、起業、医事法制などに関わる活動も推進。

④専門研修連携施設

旭川赤十字病院

研修実施責任者：四十物　摩呼（麻酔）

専門研修指導医：四十物　摩呼（麻酔）

小林　巌　（麻酔、救急集中治療）

飛世　史則（麻酔、救急集中治療）

大沼　幸代（麻酔）

麻酔認定病院番号：176

特徴：多様な症例を通じて実践的な麻酔技術を習得できるとともに、指導医による手厚いサポートのもと段階的に成長できる環境を整えています。周術期管理を一貫して学べる体制に加え、症例検討会を通じて専門医取得に向けた体系的な教育を実施しています。ワークライフバランスにも配慮し、長く安心して研修に取り組めることも特徴です。

⑤専門研修連携施設

秋田大学医学部附属病院

研修実施責任者：新山　幸俊

専門研修指導医：新山　幸俊（麻酔，ペインクリニック）

木村　哲（麻酔，ペインクリニック，医療安全）

佐藤　浩司（麻酔，集中治療）

山本　夏子（麻酔，ペインクリニック）

堀越　雄太（麻酔，集中治療）

小玉　早穂子（麻酔，心臓麻酔）

今野　俊宏（麻酔，集中治療）

五十嵐（厨川）千香（麻酔，無痛分娩）

佐藤　結香（麻酔）

小林　紗雪　(麻酔)

専門医：五十嵐（水野）　香菜（麻酔）

鵜沼篤（小児麻酔）

須永　悟史（麻酔）

嵯峨卓（心臓血管外科麻酔）

村上　風子（麻酔）

秋田（中尾）友梨香（麻酔）

麻酔認定病院番号：80

特徴：専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識，技能，態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

多様な手術の麻酔管理をバランスよく研修し，麻酔科専門医に必要な知識，技能，そして，一生の礎となる考え方と態度を学ぶことができる。一人の専攻医が経験できる症例が多彩かつ豊富であることが大きな特徴であり、十分な力をつけることが可能である。

⑥専門研修連携施設

熊本大学病院

研修実施責任者：平田　直之

専門研修指導医：平田　直之（麻酔、集中治療）

杉田　道子（麻酔）

生田　義浩（麻酔）

鷺島　克之（麻酔、集中治療）

丸田　豊明（麻酔、集中治療）

江嶋　正志（麻酔、集中治療）

小松　修治（麻酔、ペインクリニック）

山田　寿彦（麻酔、ペインクリニック）

荒木　美貴（麻酔）

石村　達拡（麻酔）

徳永　祐希子（麻酔）

林田　裕美（麻酔）

林　正清（麻酔）

柚瑠木　朋子（麻酔）

中嶋　健（麻酔）

和田　麻菜美（麻酔、集中治療）

中村　真吾（麻酔）

宮川　直子（麻酔）

冨田　香（麻酔、集中治療）

専門医：田島　功一朗（麻酔）

丸山　桜子（麻酔）

大石　将之（麻酔）

是松　伸之介（麻酔）

認定病院番号：34

特徴：　大学病院としての多くの麻酔科管理症例を経験でき、必須である小児、帝王切開、心臓外科、胸部外科、脳外科の症例数が豊富である。手術室麻酔以外にも集中治療、ペインクリニック、緩和ケアをローテーション可能である。産科麻酔講座があるため無痛分娩の管理や、区域麻酔としてのエコーガイド下テクニック、ペインクリニック領域での透視下ブロックなどの手技も学ぶことができる。

⑦専門研修連携施設

佐賀県医療センター好生館

研修実施責任者：三浦大介（麻酔）

専門研修指導医：三浦大介（麻酔）

馬場麻理子（麻酔）

草場真一郎（麻酔）

三溝慎次（麻酔）

小杉寿文（麻酔）

池田智子（麻酔）

認定病院番号：393

特徴：地域の中核病院として機能する当館は1次から3次の救急患者、新生児、小児、周 産期、透析患者、心臓・大動脈疾患などあらゆる疾患、外傷に対して迅速に対応し手 術ののちには集中治療室での治療もシームレスに実施している。また、緩和ケア病棟 での医療は専従の麻酔科医を中心に行われている。

⑧専門研修連携施設

福岡市立こども病院

研修実施責任者：水野圭一郎（麻酔）

専門研修指導医：水野圭一郎（麻酔）

泉　薫（麻酔）

住吉　理絵子（麻酔）

藤田　愛（麻酔）

小柳　幸（麻酔）

伊藤　恵（麻酔）

百瀬　未来（麻酔）

認定病院番号：205

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛やPCAを管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 応募方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに指定の方法で研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

聖マリア教育・研修センター

電 話：0942-35-3322（内線2745・2746）

e-mail：pgr@st-mary-med.or.jp

郵 送：〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422番地

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア教育・研修センター

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた1）臨床現場での学習，2）臨床現場を離れた学習，3）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修4年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師

として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10.専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

11.専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。
研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12.専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医

が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての九州大学病院、佐賀大学医学部附属病院、東北大学病院、旭川赤十字病院、秋田大学医学部附属病院、熊本大学病院、佐賀県医療センター好生館、福岡市立こども病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。